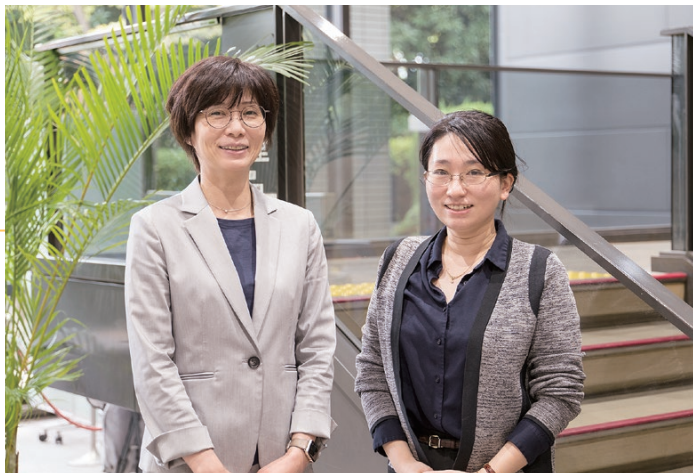


# 医系技官の 1日の過ごし方

課長・課長補佐

WORK STYLE



左:中谷 祐貴子、右:中村 梨絵子

医薬・生活衛生局血液対策課長

中谷 祐貴子 NAKATANI Yukiko

平成13年入省。医政局医事課で医師臨床研修制度の創設を担当。その後、医政局指導課、健康局結核感染症課、米国保健福祉省派遣、WHO本部派遣、保険局医療課を歴任し、岡山県保健福祉部長を経て、令和2年8月より現職。

小児科臨床医を経て、厚労省に入省してから早20年が経とうとしています。医系技官は、医療体制の整備や診療報酬改定などの医療政策はもとより、国際機関への派遣といった国際保健分野も含め、非常に幅広い領域に携わることのできる職業です。

出勤後は、予定の確認、メールチェック、担当業務に関する新聞記事の確認などを行います。一日に受信するメール数が非常に多いので、順番に見るのではなく、急ぎの案件がないかの確認が主です。

会議等がなければ、課内で部下からの相談を受けたり、対応の方向性を決定したりします。また、朝一番で見切れなかったメールのチェックや返信をします。



お弁当を食べることが多いですが、月2〜3回は、以前の部署で一緒だった同僚や省外の友人と、近くまでランチに出かけます。時には仕事の相談もします。

午後は、外部の人との会議や打ち合わせが多いです。新型コロナウイルス感染症の発生後は、ほとんどの会議をWeb会議で行うようになりました。

課の所掌とは別に、新型コロナウイルス感染症に関連する業務も担当しています。対策本部での打ち合わせに出たり、外部有識者などから今後の対策について助言をいただいたりします。

課内の業務状況に気を配りつつ、急ぎの案件がなければ、定時に帰宅します。週1回程度、業務関係やプライベートで研修会や会食に参加します。



医薬・生活衛生局血液対策課長補佐

中村 梨絵子 NAKAMURA Rieko

平成26年入省。大臣官房国際課で国際機関等の対応を担当。その後、医薬・生活衛生局食品基準審査課の食品安全管理の担当を経て、老健局老健課で介護に係る情報管理を担当。さいたま市で地域の医療体制確保を経験し、令和2年より現職。

臨床の現場を超えて、幅広く国民全体に影響する分野に、医師としての専門知識を生かして関わることができます。医療や介護など、生活に密接に関わる様々な行政が、実際にどのように運営されているかを目の当たりにし、日々が発見の連続です。

出勤

9:30

①

まずはメールをチェックし、担当業務の動きを確認・把握した後、本日はやるべきことをリストアップしていきます。優先度の目星をつけて、効率よく仕事を進めていきます。

担当している研究の班会議に参加します。最近はWebで開催されることが多くなりました。研究者との議論に加わり、研究の目的やスケジュールを踏まえて、進捗を確認します。

12:00

②

昼休みは、キリの良いところまで業務を終わらせてしまったり、自席で簡単に済ませることも多いですが、時間に余裕のある時は、同僚と銀座や虎ノ門にランチに出かけます。

13:00

③

血液製剤の安全性等に関する会議の開催を控えて、作成した資料案について課長に説明をします。指摘事項を修正し、会議当日に有意義な議論ができるよう、万全の準備をします。



15:00

④

国会議員からの資料の作成依頼にも対応します。求められている情報を、誤解が生じないように正しく伝えられているか、細心の注意を払いながら資料を作成します。

18:00

⑤

疲れを翌日に持ち越さないことが、良いパフォーマンスを維持する上で重要と感じています。業務はなるべく定時で切り上げて、自宅ゆっくり過ごす時間も確保するようにしています。